

専攻教育課程照合表

専門看護分野：クリティカルケア看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	申請 単位
専攻分野 共通科目	1. 危機とストレスに関する科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの回復を促す専門的援助方法を探究する。	2	2
	2. 重症患者の代謝病態生理学に関する科目	病態治療論	急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。	2	2
	3. クリティカルケア治療管理に関する科目	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療や処置などの全身管理について理解を深め、患者・家族中心の看護を提供するための適切な援助を探究する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	クリティカルな状況にある患者とその家族を心身統一体としてとらえ、回復に向けたケアとキュアが融合した看護介入の方法について探究する。	2	2
	2. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理的問題について理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論を学び、問題解決のための援助方法について探究する。	2	2
	3. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族の全人的苦痛を緩和するための看護ケアについて学ぶ。	2	2
	4. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	救命救急看護において様々な患者に対応できるように、病態生理、治療・処置に関する知識を深め、専門的な看護実践を行うための能力を養う。	2	2
実習科目	クリティカルケア看護実習	クリティカルケア看護学実習Ⅰ：役割実習	高度実践看護師の6つの役割のうち、主に教育、相談、調整、倫理調整について、急性・重症患者看護専門看護師の活動を通して学び、役割開発を行う能力を養う。	2	2
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ：高度実践看護実習（集中治療領域）	集中治療を受ける患者・家族の複雑な看護問題に対して、的確な臨床判断を行い、エビデンスに基づいた高度な看護実践が出来る能力を修得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ：高度実践看護実習（救命救急領域）	救急医療を受ける患者・家族の複雑な看護問題に対して、的確な臨床判断を行い、エビデンスに基づいた高度な看護実践が出来る能力を修得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅳ：高度実践看護実習（ポストクリティカルケア）	ポストクリティカル期にある高度な治療を受ける患者・家族の複雑な看護問題に対して、クリティカルケアからの継続性、あるいは、ポストクリティカルケアから病状が安定するまでの継続性に視点を置き、的確な臨床判断を行い、エビデンスに基づいた高度な看護実践が出来る能力を修得する。	2	2
				合計単位 24 単位	

クリティカルケア看護学特論 I

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者：加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの回復を促す専門的援助方法を探究する。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩について理解を深める。
- 2) 衝撃的な体験や持続するストレスに対する身体的・心理的反応を説明する代表的な理論について理解する。
- 3) 理論を用いて事例を分析し、危機的状況からの回復を促す援助方法について述べることができる。

3. 教育内容

- ①② ガイダンス／クリティカルな状況にある対象および家族の特性
- ③④ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論
(ストレスコーピング理論 その1)
- ⑤⑥ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論
(ストレスコーピング理論 その2)
- ⑦⑧ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (危機理論)
- ⑨⑩ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (悲嘆理論)
- ⑪⑫ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (レジリエンス)
- ⑬ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (ボディイメージ - 自己概念)
- ⑭⑮ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論の応用 (事例検討)

4. 教育の進め方

講義および院生によるプレゼンテーションに基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑦⑧⑪⑫⑬
- 2) プレゼンテーション ⑥⑨⑩⑭⑮

【教科書・参考図書】各回において適宜提示する。

【事前学習】講義：各回で取り上げる理論についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議内容を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

病態治療論

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者：酒井 透江（本学講師）

1. 教育目的

急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 生体侵襲を受け、臓器の急性機能不全に陥った重症患者の病態および治療について正確に理解する。
- 2) 生体反応を踏まえて、急性重症患者の複雑な身体機能を説明することができる。

3. 教育内容

- ①② 生体侵襲を受けた患者の病態生理
- ③④ 急性呼吸不全患者の病態生理
- ⑤⑥ 急性循環不全患者の病態生理
- ⑦⑧ 脳神経機能障害の患者の病態生理
- ⑨⑩ 多臓器障害患者の病態生理
- ⑪⑫ 熱傷患者の病態生理
- ⑬⑭ 麻酔による生体への影響
- ⑮ 急性・重症患者看護専門看護師に必要とされる病態生理学の知識と判断

4. 教育の進め方

①から⑭までの講義を受講した上で、討議は院生が主体的に展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭ 2) 発表・討議 ⑮

【教科書・参考図書】 各回において提示する。

【事前学習】 講義：各回の講義内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】 講義・討議内容について復習し、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学演習 I

2単位：60時間（秋学期）
科目責任者：伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療や処置などの全身管理について理解を深め、患者・家族中心の看護を提供するための適切な援助を探究する。

2. 教育目標

- 1) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の目的と根拠を述べることができる。
- 2) 複雑な治療や処置に伴う急性・重症患者の身体的・心理的变化を捉えて包括的にアセスメントすることができる。
- 3) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の選択や評価について、Evidence Based Practice の観点から探究し、述べることができる。

3. 教育内容

- ①② 重症患者の栄養管理
- ③④ 重症患者の創傷管理
- ⑤⑥ 重症患者の体液管理
- ⑦⑧ 重症患者の薬物療法
- ⑨⑩ ICUにおける感染予防対策
- ⑪⑫⑬ 人工呼吸管理中の患者の看護援助（1）
- ⑭⑮ 人工呼吸管理中の患者の看護援助（2）
- ⑯⑰ 非侵襲的人工呼吸療法および酸素療法中の患者の看護援助
- ⑱⑲⑳ 補助循環装置装着中の患者の看護援助
- ㉑㉒ 急性期心臓リハビリテーションを実施する患者の看護援助
- ㉓㉔ 集中治療を受ける患者の早期リハビリテーション
- ㉕㉖ 嚥下障害患者の評価とリハビリテーション
- ㉗㉘ 急性血液浄化法を受ける患者の看護援助
- ㉙㉚ 集中治療を受ける高齢者患者の看護援助

4. 教育の進め方：

講義および院生による討議に基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚、2) 発表・討議 ㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚

【事前学習】講義：各回の講義内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・討議内容について復習し、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学特論 II

2 単位：30 時間（春学期）

科目責任者：伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者とその家族を心身統一体としてとらえ、回復に向けたケアとケアが融合した看護介入の方法について探究する。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者に対する援助関係を発展させるために必要な理論を学び、回復を促進するための看護援助の方略を探究する。
- 2) 家族看護理論を学び、クリティカルな状況にある患者家族の援助に必要な看護援助の方法について述べることができる。

3. 教育内容

- ① ガイダンス
- ②③ クリティカルな状況にある患者に対する援助 — 対人関係論・援助関係論
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者家族の理解（体験理解とアセスメント）
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者家族に対する看護支援（家族看護論・エンパワーメント）
- ⑧⑨ クリティカルケアを受ける患者に対する臨床推論
- ⑩⑪ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助—コンピテンシーに基づく看護実践—
- ⑫⑬ クリティカルな状況にある患者・家族に対する看護の実践
- ⑭⑮ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する看護（まとめ）

4. 教育の進め方

講義および院生による討議に基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑫ 2) 発表・討議 ⑨⑪⑬⑭⑮

【教科書・参考図書】

- 1) 「高度実践看護 統合的アプローチ第2版」 Mary Fran Tracy, Eileen T.O' Grady 著 中村美鈴、江川幸二監訳 へるす出版 2020
- 2) Curley, M. A. (1998). Patient-nurse synergy: optimizing patients' outcomes. American journal of critical care, 7(1), 64.

※その他、各回において提示する。

【事前学習】講義：各回の講義内容について、自身の課題を整理しておく。

発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・討議内容を復習し、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

クリティカルケア看護学特論 III

2 単位：30 時間（秋学期）

科目責任者：加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理的問題について理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論を学び、問題解決のための援助方法について探究する。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況において生じやすい倫理的問題について理解を深める。
- 2) 患者および家族の意思決定を支え、倫理的問題を解決するための理論を学び、問題解決に向けた援助方法を探究する。
- 3) 医療チーム内の倫理調整における専門看護師の役割について考察する。

3. 教育内容

- ① ガイダンス／クリティカルケア領域における倫理
- ②③ 医療および看護倫理の歴史的変遷と倫理に関する諸理論
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者と家族に生じる倫理的問題
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者と家族の意思決定支援
- ⑧⑨ 脳死・臓器移植など最新治療を巡る倫理的問題
- ⑩⑪ クリティカルな状況下の倫理調整における看護師の役割
- ⑫⑬ クリティカルな状況下におけるエンドオブライフケア
- ⑭⑮ クリティカルな状況下における倫理的問題に対する検討（事例検討）

4. 教育の進め方

講義および院生によるプレゼンテーションに基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。

- 1) 講義 ①②③④⑤⑥⑧⑨⑫⑬
- 2) プレゼンテーション ⑦⑩⑪⑭⑮

【教科書・参考図書】各回において適宜提示する。

【事前学習】講義：各回で取り上げる理論についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議内容を明らかにしておく。

【事後学習】講義・討議内容を振り返り、復習する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40％）、課題レポート（60％）

クリティカルケア看護学演習 II

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者：伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的

クリティカルな状況にある患者と家族の全人的苦痛を緩和するための看護ケアについて学ぶ。

2. 教育目標

- 1) クリティカルな状況にある患者・家族の全人的苦痛について理解を深め、アセスメントする知識を修得する。
- 2) クリティカルな状況にある患者・家族の苦痛を緩和するための理論と方法及び評価について探究する。
- 3) クリティカルな状況にある患者・家族の苦痛を支援する専門看護師の役割および課題について理解を深める。

3. 教育内容

- ① ガイダンス
- ②③ クリティカルな状況にある患者の全人的な苦痛の理解
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者の症状マネジメント
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 痛み
- ⑧⑨ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 呼吸困難、その他の症状
- ⑩⑪ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― せん妄
- ⑫⑬ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 鎮静管理
- ⑭⑮ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助 ― 術後痛
- ⑯⑰ クリティカルな状況にある患者の苦痛に対する介入の評価
- ⑱⑲ クリティカルな状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛に対する援助
- ⑳㉑ クリティカルな状況にある患者・家族の苦痛緩和に必要とされるコンサルテーションの実際
- ㉒㉓ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習1）
- ㉔㉕ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習2）
- ㉖㉗ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習3）
- ㉘㉙㉚ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助の分析と評価（事例検討）

4. 教育の進め方

講義と院生の討議に基づき、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。病院においてベッドサイド演習を行い、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討により看護援助の方略を検討する。

- 1) 講義 ①②④⑥⑧⑩⑫⑭⑯⑱⑳㉑ 2) 発表③⑤⑦⑨⑪⑬⑮⑰⑲㉓㉔㉕
- 3) ベッドサイド演習 ㉒ー㉗

【教科書・参考図書】

- 1) Devlin, John W., and Yoanna Skrobik. “集中治療室における成人患者の痛み、不穏/鎮静、せん妄、不動、睡眠障害の予防および管理のための臨床ガイドライン.” (2018).

※その他、各回において提示する。

【事前学習】講義：各回で扱う取り扱うテーマに関連する内容について、自身の課題を整理しておく。
発表：講義より自身の課題となるテーマを取り上げ、討議内容を明確にした資料を作成する。

【事後学習】講義・演習・討議内容について振り返り、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40％）レポート [ベッドサイド、課題レポート]（60％）

クリティカルケア看護学演習 III

2単位：60時間（秋学期）

科目責任者：加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的

救命救急看護において様々な患者に対応できるように、病態生理、治療・処置に関する知識を深め、専門的な看護実践を行うための能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 救命救急看護の対象となる患者の看護問題に対して適切な看護援助を探究することができる。
- 2) 救命救急看護の対象となる患者の看護援助について、最新の研究成果や知識を活用して考えることができる。
- 3) 救命救急看護の対象となる患者の看護において、専門性を発揮していくために必要とされる専門看護師の役割と機能について探究することができる。

3. 教育内容：

- ① ガイダンス
- ②③ 救命救急治療を受ける患者・家族に対する初期対応 — トリアージ
- ④⑤ 救命救急治療を受ける患者・家族に対する初期対応 — 災害看護
- ⑥⑦ 外傷患者・家族のアセスメントと看護援助
- ⑧⑨ 熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助
- ⑩⑪ 脳血管障害患者・家族のアセスメントと看護援助
- ⑫⑬ 急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助
- ⑭⑮ 中毒患者・家族のアセスメントと看護援助
- ⑯⑰ ショック・CPA 患者・家族のアセスメントと看護援助
- ⑱⑲ 救急時の処置と看護援助
- ⑳㉑ 救命救急治療を受ける患者・家族に対する援助 — Rapid Response System
- ㉒㉓ 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習1）
- ㉔㉕ 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習2）
- ㉖㉗ 救命救急看護に必要とされる援助方法の検討（事例検討）
- ㉘㉙㉚ 救命救急看護における高度実践看護師の役割の考察・まとめ

4. 教育の進め方

講義および院生によるプレゼンテーションに基づいて、院生が主体的に討議を展開し理解を深める。病院においてベッドサイド演習を行い、講義や文献検討で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、更に事例検討を行うことで看護援助の方向性を見出す。

1) 講義 ①②③④⑤⑥⑧⑩⑫⑭⑯⑰⑱⑲⑳

2) プレゼンテーション ③④⑦⑨⑪⑬⑮⑰⑲㉑㉒㉓㉔㉕ 3) ベッドサイド演習 ㉒㉓㉔㉕

【教科書・参考図書】 各回において適宜提示する。

【事前学習】 講義：各回で取り上げる理論についてまとめ、疑問点を整理しておく。

発表：発表資料を作成し、討議内容を明らかにしておく。

【事後学習】 講義・演習・討議内容を振り返り、文献的考察を加えてレポートする。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40％）レポート [ベッドサイド演習、課題レポート]（60％）

クリティカルケア看護学実習Ⅰ：役割実習

2単位：90時間（春・秋学期）

科目責任者：加賀谷 聡子（本学教授）

1. 実習目的

高度実践看護師の6つの役割のうち、主に教育、相談、調整、倫理調整について、急性・重症患者看護専門看護師の活動を通して学び、急性・重症患者専門看護師に求められる役割を探究する。

2. 実習目標

- 1) 急性・重症患者看護専門看護師に求められている役割と機能について説明できる。
- 2) 急性・重症患者看護専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

3. 実習内容

- 1) 急性・重症患者看護専門看護師に同行し、急性・重症患者看護専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割と機能を理解する。
- 2) 急性・重症患者看護専門看護師に必要な知識・技術・態度について見学、体験を通して学ぶ。
- 3) 役割実践については、専門看護師の指導のもと、可能な範囲で実施する。
 - ・教育：他の看護職者への教育を、講義・演習で培った知識や技術をもとに、指導者とともに実践する。
 - ・相談：複雑で困難な実践状況において、クリティカルケア看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、コンサルテーションのあり方について学ぶ。
 - ・調整：複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整のあり方について学ぶ。
 - ・倫理調整：クリティカルケア看護における倫理的課題を抽出し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のため様々な検討を行い、倫理調整のあり方を学ぶ。

4. 実習の進め方

- 1) 実習場において実習担当教員の指導と急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 2) 専門看護師の役割（教育、調整、相談、倫理調整）について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画を作成し、修正をしながら実行する。
- 3) 医療チームのカンファレンスに参加し、自身が検討（あるいは実施）した介入について、客観的に振り返る。
- 4) 実習終了後は、学んだ内容についてレポート作成する。

5. 実習施設

杏林大学医学部附属病院（術後疼痛管理チーム、Rapid Response Team、呼吸ケアサポートチーム含む）

6. 評価方法

日々の実習記録およびカンファレンスの内容（40%）、最終提出レポート（60%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習 II：高度実践看護実習（集中治療領域）

3単位：135時間（春・秋学期）

科目責任者：伊藤 有美（本学准教授）

1. 実習目的

集中治療を受ける患者・家族の複雑な看護問題に対して、的確な臨床判断を行い、エビデンスに基づいた高度な看護実践が出来る能力を修得する。

2. 実習目標

- 1) 集中治療領域においてクリティカルな状況にある患者・家族に対し、病態や治療に基づいた臨床判断と全体像を包括的に捉えたアセスメントを行い、患者・家族の抱える複雑な看護問題を明確にできる。
- 2) 的確な臨床判断と高度なケア技術を提供し、患者・家族の抱える複雑な看護問題を解決に導くことができる。
- 3) 集中治療を受ける患者・家族の苦痛を全人的に捉え、対象者の苦痛に合わせた症状マネジメントを統合的にアプローチできる。
- 4) クリティカルな状態にある患者および家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら解決を図ることができる。
- 5) 集中治療室の特殊な治療環境を理解し、患者中心の医療を展開するために、専門看護師としてチーム医療に参画し、多職種と連携・調整できる。
- 6) 患者および家族に対して行った看護実践を論理的な思考に基づいて評価し、今後の課題を明確にし、さらにクリティカルケア看護の専門性について考察することができる。

3. 実習内容

- 1) 集中治療室で治療を受けている複雑で解決困難な問題を有する患者を受け持ち、高度なケア技術の直接的な提供も含め、一連の看護過程を展開する。
- 2) 実習終了後、急性・重症患者看護専門看護師および教員と事例検討を行い、看護実践場面を振り返り、根拠に基づいて客観的に評価し、今後の課題とクリティカルケア看護の専門性について考察する。

4. 実習の進め方

- 1) 集中治療室にて治療を受けている重症患者を受け持ち、看護を実践する。
- 2) 実習施設においては、実習担当教員および急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。
- 4) 医療チームのカンファレンスに参加し、アセスメントや看護介入に対する客観的な評価・フィードバックを受けて、自らの看護実践について振り返る機会を持ち、看護方略を調整する。特に、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、集中治療を専門とする医師（集中治療専門医等）の指導も受けながら実習を進める。
- 5) 実践した内容に基づいてケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。

5. 実習施設

杏林大学医学部附属病院 中央集中治療室、脳卒中センター

6. 評価方法

実習内容と実習終了後の課題レポート（臨地実習記録 40%、最終提出レポート 60%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅲ：高度実践看護実習（救命救急領域）

3単位：135時間（春・秋学期）

科目責任者：伊藤 有美（本学准教授）

1. 実習目的

救急医療を受ける患者・家族の複雑な看護問題に対して、的確な臨床判断を行い、エビデンスに基づいた高度な看護実践が出来る能力を修得する。

2. 実習目標

- 1) 救命救急領域においてクリティカルな状況にある患者・家族に対し、病態や治療に基づいた臨床判断と全体像を包括的に捉えたアセスメントを行い、患者・家族の抱える複雑な看護問題を明確にできる。
- 2) 的確な臨床判断と高度なケア技術を提供し、患者・家族の抱える複雑な看護問題を解決に導くことができる。
- 3) 救急外来の場面において適切なトリアージを行い、医療チームと連携した迅速な対応ができる。
- 4) 突然の発症による患者・家族の苦痛を全人的に捉え、対象者の苦痛に合わせた症状マネジメントを統合的にアプローチできる。
- 5) 救急医療を受ける患者および家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら解決を図ることができる。
- 6) 高度救命救急センターの特殊な治療環境を理解し、患者中心の医療を展開するために、専門看護師としてチーム医療に参画し、多職種と連携・調整できる。
- 7) 患者および家族に対して行った看護実践（トリアージも含む）を論理的な思考に基づいて評価し、今後の課題を明確にし、さらに救急看護の専門性について考察することができる。

3. 実習内容

- 1) 高度救命救急センターにて治療を受けている、複雑で解決困難な問題を有する患者を受け持ち、高度なケア技術の直接的な提供も含め、一連の看護過程を展開する。
- 2) 三次救急で搬送された患者の病態を適切に臨床判断し、状況に応じた救命技術を医療チームと連携して迅速に提供する。また、心理的危機的状況に陥った患者家族に対して、早期から介入できるようにする。
- 3) 救急外来にて、救命救急医やトリアージナースの指導のもと、来院した患者に対してトリアージの場面に参加する。
- 4) 救命救急医やトリアージナースとのカンファレンスを通して、トリアージにおける自己の臨床判断能力についての評価を客観的に行う。特に、アンダートリアージがあった場合には、事例を分析し、トリアージにおける臨床判断の自己課題について明確にする。
- 5) 実習終了後、実習指導および教員と事例検討を行い、看護実践場面を振り返り、根拠に基づいて客観的に評価し、今後の課題と救急看護の専門性について考察する。

4. 実習の進め方

- 1) 救命救急センターにて治療を受けている重症患者を受け持ち、看護を実践する。また、救急

外来においては、医師およびトリアージナースの指導のもと、トリアージ実践に参加し、可能な範囲で実習を展開する。

- 2) 実習施設においては、実習担当教員および急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。
- 4) 初療の翌日に行われるカンファレンス等、医療チームのカンファレンスに参加し、アセスメントや看護介入に対する客観的な評価・フィードバックを受けて、自らの看護実践について振り返る機会を持ち、看護方略を調整する。特に、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、救急医療を専門とする医師（救急科専門医等）の指導も受けながら実習を進める。
- 5) 実践した内容に基づいてケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。

5. 実習施設

杏林大学医学部附属病院 高度救命救急センター

6. 評価方法

実習内容と実習終了後の課題レポート（臨地実習記録 40%、最終提出レポート 60%）にて評価する。

クリティカルケア看護学実習Ⅳ：高度実践看護実習（ポストクリティカルケア）

2単位：90時間（春・秋学期）

科目責任者：加賀谷 聡子（本学教授）

1. 実習目的

ポストクリティカルケア期にある高度な治療を受ける患者・家族の複雑な看護問題に対して、クリティカルケアからの継続性、あるいは、ポストクリティカルケアから病状が安定するまでの継続性に視点をおき、的確な臨床判断を行い、エビデンスに基づいた高度な看護実践が出来る能力を修得する。

2. 実習目標

- 1) 高度な治療を受けるポストクリティカルケア期にある患者に対して、病態や治療に基づいた臨床判断と、クリティカルな状況から病態が安定するまでの全体像を包括的に捉えたアセスメントを継続的に行い、患者・家族の抱える看護問題を明確にできる。
- 2) 的確な臨床判断と高度なケア技術を提供し、患者・家族の抱える複雑な看護問題を回復に向けて解決に導くことができる。
- 3) クリティカルな状況から継続的に高度な治療を受ける患者・家族の苦痛を全人的に捉え、対象者の苦痛に合わせた症状マネジメントを統合的にアプローチできる。
- 4) ポストクリティカルケアにある患者および家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら解決を図ることができる。
- 5) クリティカルケア領域からポストクリティカルケアに移行した治療環境の変化を理解し、患者中心の医療を展開するために、専門看護師としてチーム医療に参画し、多職種と連携・調整できる。
- 6) ポストクリティカルケア期にある患者および家族に対して行った看護実践を論理的な思考に基づいて評価し、クリティカルケア看護とその継続性について今後の課題を明確にし、さらに、クリティカルケア看護の専門性について考察することができる。

3. 実習内容

- 1) クリティカルケア領域で看護介入した患者を継続的に受け持ち、集中治療後症候群（post intensive care syndrome : PICS）の発症を中心とした患者アウトカムおよび自らの看護実践を客観的に評価し、さらに回復を促進するためのリハビリテーションを中心とした援助を提供する。また、ポストクリティカルケア期にある患者に対し、高度なケア技術の直接的な提供も含め、一連の看護過程を展開する。
- 2) 実習終了後、急性・重症患者看護専門看護師および教員と事例検討を行い、看護実践場面を振り返り、根拠に基づいた客観的評価から、ポストクリティカルケア領域における今後の課題とクリティカルケアにおける看護の継続性について考察する。

4. 実習の進め方

- 1) クリティカルケア領域で受け持った患者を継続的に受け持ち、看護実践する。
- 2) 実習施設において実習担当教員および急性・重症患者看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理

については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。

- 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。
- 4) 医療チームのカンファレンスに参加し、介入に対する客観的な評価、フィードバックを受けて、看護方略を調整する。特に、治療方針の確認やアセスメント、リハビリテーションの方向性やセルフケア指導の方針などに関しては、担当医師や理学療法士、作業療法士などの多職種とディスカッションする機会を設ける。
- 5) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。

5. 実習施設

杏林大学医学部附属病院 ハイケアユニット他

6. 評価方法

実習内容と実習終了後の課題レポート（臨地実習記録 40%、最終提出レポート 60%）にて評価する。